

而持一々々々々

壬子ノ北館家より壬子志ノ一ノ窮にあり殆
云慶長十年戊申南呂山彼大寺助利長列
當山海行人とあり又何人の壬子志や名
等を集ふるお中一冊あり當時の列當を
河勢院といふ山下にあり上より金華山
額森寺といふ禪寺あり壬子の祭礼七月
十九日予按るに又壬子ハ彦狭路王の
壬子御諸別王モロツケノナキニとや壬子記曰又壬子年春
二月戊子朔壬辰以彦狭路王拜東山道十

五国都督是ノ都を是也城令ノ孫也然則春
日元アキ叱ヒ邑イ外ウチ病而薨之是時東国百姓悲其
王不至竊盜王尸ナ葬於上野国云々職系抄
あり東海乃を十又々と云ふと云ふ謂十又々ハ
伊賀伊勢志ノ尾張三河幸ハ駿河伊豆
甲斐お模武蔵安房上総下総常陸是之
十又々也の内ハ上野也一日本紀と難難
在因職系抄ハ東山乃を以てハノ國とす而
謂ハノハ近江美濃飛騨信濃上野下野
陸奥出羽是なり上野ハ東山乃ハハノ